

ピリピ人への手紙（ピリピ教会の皆さんへ）

ピリピは、今のギリシヤの北部にあり、ローマの植民都市として栄えた町でした。ここはまた、パウロにとっても思い出深い町で、彼がヨーロッパに最初の教会をつくったのもこの町でした。それも、捕らえられ、むちで打たれながらつくったのです。それにこたえて、ピリピ教会のクリスチャンも、パウロのために献身的に尽くし、彼の経済的必要を満たしたこともしばしばでした。その教会に、パウロは、キリストを信じる者の喜びを、真実こめて語ります。

一

1 キリスト・イエスの奴隷であるパウロとテモテから、ピリピの町にいる牧師と執事たち、およびクリスチャンの皆さんへ。

2 どうか、神様の祝福があなたがた一同にありますように。父なる神と主イエス・キリストが、一人一人を、あふれるばかり祝福し、心にも生活にも、平安を満たしてくださいように。3 あなたがたを思う私の祈りは、いつも神様への賛美にあふれています。

4 そして、私の心は喜びに満たされるのです。5 それは、あなたがたが、キリスト様についての良い知らせを、初めて聞いた日から今日まで、全力をあげて、その知らせを宣傳する働きに協力してくれたからです。6 あなたがたの内面に良い働きを始めた神様は、引き続き、必ずそれを恵みのうちに成長させ、やがてキリスト・イエスが帰って来られる日に、ついに完成してくださいと、私は堅く信じています。

7 こう考えるのも、きわめて当然です。あなたがたは、私にとって特別な存在なのですから。私が獄中にある時も、自由の身で真理を弁明し、キリスト様のことを語っている時も、あなたがたは、私と共に神様の祝福をいただいたのです。8 私がキリスト・イエスのやさしさをもって、どんなに深くあなたがたを愛し、慕っているかをご存じなのは神様だけです。9 私はこう祈っています。どうか、あなたがたの他の人々への愛が、もつともつと満ちあふれますように。同時に、霊的な知識と洞察力も、さらに深められますように。10 それは、あなたがたに、善悪をはっきり見分ける力がいつも備わり、主が来られる日までずっと、だれからも非難されることなく、心がきよく保たれるよう、願うからです。11 どうか、常に神の子供にふさわしく、親切な良い行ないができますように。それは、大いに主をほめたたえ、主の栄光を現わすことになるのです。

12 愛する皆さん。このことは、わきまえてほしいものです。つまり、ここで私の身に起こることはすべて、キリスト様についての良い知らせを広めるのに、たいへん役立っているという事実です。13 周囲の人たちはみな、兵營の兵士に至るまで、私が、ただクリスチャンであるというだけの理由で投獄されていることを、知っているからです。

14 また、私を見て、ここにいる多くのクリスチャンは、投獄など恐れなくなりました。ともかく、彼らは耐え忍んでいる私の姿に勇気づけられ、ますます大胆に、キリスト様のことを人々に語るようになったのです。

15 もっとも、中には、神様が私をこのように役立ててくださるのをねたんで、この良い知らせを宣べ伝えている人もいます。彼らは、勇敢な伝道者という名声がほしいのです。しかしこのほか、もっと純粋な動機から伝道している人もいます。16 私を愛する気持ちから、そうしているのです。つまり、私をこのような状況下におかれた主の目的が、真理を弁明させる点にあることを知っているからです。17ところが、別の人たちは、自分たちの成功によって、獄中にある私の苦痛がもっと増すだろうと考えて、つまり、私にねたませようとして、伝道しているのです。18しかし、どのような動機からであれ、キリスト様についての良い知らせが宣べ伝えられるのは事実であり、私は喜んでます。19 これからも喜び続けるでしょう。なぜなら、あなたがたの祈りや、聖霊様の助けによって、このことがすべて私に益となることが、わかっているからです。20 というのも、私は、次のような熱心な期待と希望とをいただいて生きているからです。すなわち、自分で恥じるようなことは一つもせず、かえって、この試練の時も、今まで同様、常にキリスト様のために、大胆に語り、また、生きるにしても、死ぬにしても、いつもキリスト様のすばらしさを身をもって現わしたい、と思っているのです。21 なぜなら、私にとって、生きることは、キリスト様のために良い機会を得たことを意味し、死ぬことは、さらにすばらしいことを意味するからです。22 しかし、生きているからこそ、人々をキリスト様に導く機会に恵まれるとすれば、生と死のどちらがよいのか、ほんとうはわかりません。23 ある時は生きていたいと思ひ、また、ある時には反対の気持ちになります。というのも、この世を去ってキリスト様のそばにいることほど、願わしいことはないからです。そのほうが、地上にとどまっているより、どれだけ幸せかわかりません。24 しかし、地上では、もっとあなたがたの役に立てることも事実です。25 そうです。私にはまだ、この世で生きる使命があるのです。それで、あなたがたの信仰の成長を助け、もっと喜びにあふれさせるために、きっと、もうしばらくの間、地上に長らえることになるでしょう。26 私が生き延びて、もう一度そちらに行った時、あなたがたのうちに喜びがわき上がり、私を無事に守ってくださったイエス・キリストを、心から賛美するようになるのです。27 しかし、たとえ私の身にどんなことが降りかかろうと、あなたがたは、いつもクリスチャンらしく生活するよう心がけてください。そうすれば、もう一度会えるにしても、会えないにしても、あなたがたについて、いつでもうれしい報告を聞けるでしょうから。つまり、あなたがたが、キリスト様の良い知らせを宣べ伝えるという、一つの目標に向かって、しっかり協力して立っており、28 敵対する者たちのどんなしわざにも、たじろぐことがないと。実際、このことは、彼らの滅びを暗示するのですが、あなたがたにとっては、神様が共にいて、永遠のいのちを与えてくださることの、確かな証拠となります。29 あなたがたは、ただキリスト様を信じるだけでなく、キリスト様のために苦しむという特権をも与えられているのです。30 私たちは、共に戦っているのです。あなたがたは、先にキリスト様のために苦しんでいる私の姿を見ました。そして、今なお、激し

く大きな戦いの真ただ中にいる私のことを、よく知っているはずです。

二

1 あなたがたの間には、クリスチャンとして互いに励まし合う気持ちが、少しでもありますか。私を助けたいと思うほどの愛がありますか。私たちは同じ御霊様を共にいただいており、主にあって互いに兄弟であるということの、ほんとうの意味がわかっているでしょうか。やさしい心と思いやりが、少しでもあるでしょうか。2 もしそうなら、互いに愛し合い、心からうちとけ合い、心と思いと目的とを一つにして共に働き、私を心から喜ばせてください。

3 自己中心的になったり、見栄を張ったりしてはいけません。謙そんになって、他の人を自分よりもすぐれた者とみなさない。4 身の回りのことばかりに、とらわれるのではなく、他人にも目を向け、その行動にも関心を持ちなさい。

5 私たちに対するキリスト・イエスの態度を、見なさい。6 キリスト様は神様なのに、神様としての権利を要求したり、それに執着したりはなさいませんでした。7 かえって、その偉大な力と栄光を捨てて、奴隷の姿をとり、人間と同じになりました。8 そればかりか、さらに自分を低くし、まさに犯罪人同様、十字架上で死なれたのです。

9 しかし、それだからこそ、神様はキリスト様を高く天に引き上げ、最高の名をお与えになりました。10 それは、そのお名前のもとに、すべてのものが天でも地上でも地下でもひざまずき、11 すべての口が「イエス・キリストは主です」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。

12 心から愛する皆さん。私がそちらにいた時、あなたがたはいつも、私の教えに細心の注意をはらって従ってくれました。離れている今はなおさら、注意深く善行に励んでください。救われているのなら、当然そうすべきなのです。深い尊敬の思いをこめて神様に従い、神様をお喜ばせできないことから手を引きなさい。13 神様は人の心に働きかけて、従おうとする思いを起こさせ、神様が望まれる行ないができるよう、助けてくださるのです。

14 何事においても、不平を言ったり、理屈をこねてはいけません。15 16 だれからも非難されないためです。心の曲がった頑固な人がひしめいている暗い世の中で、あなたがたは、神様の子供として、汚れのない、きよらかな生活を送らなければなりません。世の人々の間で、いのちのことばを高く掲げ、燈台のように輝きなさい。

そうすれば、キリスト様が帰って来られる時、私は、あなたがたに対する労苦がむだでなかったことを知り、どんなに喜ぶことでしょう。17 あなたがたの信仰を、供え物として神様にささげる時、その上に、たとえ私の血を注がなければならないとしても——あなたがたのために、いのちを捨てなければならないとしても——私はうれしいのです。そして、あなたがた一人一人にも、この喜びを分けてあげたいのです。18 このことは、当然、あなたがたにとっても喜びなのですから。私があなただがたのために、いのちを捨てる特権を持っていることを、共に喜んでください。

19 主のお許しがありしだい、テモテをそちらへやりたいと思っています。 そうなれば、彼から、あなたがたのことや、そちらの様子を報告してもらい、元気づけられると期待しています。 20 テモテほど親身になって、あなたがたのことを心配している人はいません。 21 ほかの人はみな、自分の計画に心を奪われ、キリスト・イエスのことなど気にかけていないようです。 22 しかし、テモテは違います。 よくご存じのとおり、まるで私の息子のように、キリスト様の良い知らせを宣べ伝えるのを助けてくれました。 23 それで、ここでの私の取り扱いがどうなるかわかりしだい、テモテを行かせるつもりです。 24 私も、近いうちに主がそちらを訪ねさせてくださる、と確信しています。 25 それはさておき、エパフロデトを、あなたがたのもとに帰さなければ、と考えています。 よくぞ、困っていた私を助けるために、エパフロデトをよこしてくれました。 まことに、彼と私は、血を分けた兄弟のように、手を取り合って働き、戦ってきました。 26 いま彼に、そちらへ帰ってもらいます。 彼は、あなたがた一同のことを思ってホームシックにかかっており、その上、自分の病気のことがそちらに知れたのを、ひどく気にしているからです。 27 病気のことは、ほんとうです。 実際、危うく、いのちを落とすところでした。 しかし神様は、エパフロデトをあわれんでくださったのです。 それは、もうこれ以上、悲しみが重ならないようにとの、私へのあわれみでもありました。 28 それで、エパフロデトを帰してやりたいと、心から願っています。 あなたがたが彼に会って感謝にあふれる姿が、目に浮かぶからです。 それは私にもうれしいことですし、心配も軽くなります。 29 どうか喜びにあふれ、主にあって迎えてやってください。 また、その労をねぎらい、感謝の気持ちを表わしてください。 30 なぜなら、彼はいのちがけでキリスト様のために働き、今にも死にそうな目に会ったからです。 彼は離れているあなたがたに代わって、私に尽くしてくれたのです。

### 三

1 愛する皆さん。 どんなことが起ころうと、主にあって喜びなさい。 こう何度も言いますが、それを私は、別にわずらわしくは思いませんし、あなたがたも聞かされたほうがいいのです。

2 救われるためには割礼（男子の生殖器の包皮を切り取る儀式）を受ける必要があると教える、あの悪い連中を警戒してください。 危険な犬ですから。 3 肉体の一部を切り取りさえすれば、神様の子供になれるのではありません。 霊をもって神様を礼拝する者こそ、神様の子供なのです。 その礼拝こそが、ただ一つの真の「割礼」です。 クリスマスの誇れることと言ったら、キリスト・イエスが成し遂げてくださったわがだけです。自分で自分を救うことなどとてもできないと、よく知っているはずで。

4 しかし、万一、自分を救える見込みがある人間をあげるとしたら、それは私だ、と言ってもいいでしょう。 もし、人間的に見て救われる人がいるとしたら、私には、確かにその可能性があります。 5 生粋のユダヤ人として、由緒あるベニヤミンの家系に生まれた私は、八日目に、ユダヤ人のしるしとしての儀式である、割礼を受けました。 つまり、

だれにも引けを取らない、正真正銘のユダヤ人です。その上、ユダヤ教のおきてや習慣のすべてを守る点にかけては、最もきびしいパリサイ派に属していました。6 熱心さの点ではどうだったかと言うと、もちろん、熱心なあまり、教会を激しく迫害したほどです。そして、ユダヤ教のささいな規則や規定にも徹底的に従おうと、懸命に努力しました。

7 しかし、以前、非常に価値があると思っていたこれらのものを、今ではことごとく捨ててしまいました。それは、ただキリスト様だけに信頼し、キリスト様だけに望みをかけるためです。8 そうです。主であるキリスト・イエスを知っているという、途方もなくすばらしい特権と比べれば、ほかのものはみな、色あせて見えるのです。私は、キリスト様以外のものは、がらくた同然にみなし、全部捨ててしまいました。それは、キリスト様を自分のものとするためであり、9 また、もはや、良い人間になろうとか、おきてに従って救われようとか考えるのはやめて、ただキリスト様を信じることによって救われ、キリスト様と結ばれるためです。神様が、私たちが正しい者と認めてくださるのは、信仰——ただキリスト様だけに頼ること——を持っているかどうかで、決まるからです。

10 私は今、ほかのことはいっさい考えず、ただこのことだけを求めています。つまり、真にキリスト様を知ること、キリスト様を復活させた超自然的な力を、身をもって体験すること、そして、キリスト様と共に苦しみ、また死ぬとは、どういうことかを知ることです。11 死人の中から復活した者特有の、生き生きとした新しいのちに生きる者となるためには、どんな犠牲もいといません。

12 なにも、自分が完全な人間だ、などと主張するつもりはありません。学ぶべきことも、まだたくさん残っています。ただ、キリスト様が何のために救ってくださったかを知り、私に与えられている目標に到達する日を目指して、努力しているのです。

13 愛する皆さん。私は、まだその目標に達してはいません。ただこの一事に、全力を注いでいます。すなわち、過去に執着せず、前にあるものを望み見、14 ゴールに到着してほうびを得るために、一生懸命努力しているのです。このほうびを与えようと、神様は、私たちが天へと召しておられます。それは、キリスト・イエスが成し遂げてくださったことに基づくのです。

15 私は、一人前のクリスチャンである、あなたがたがみな、この点について、私と同じ考え方をするようにと願います。もし何かの点でこの考え方からはずれているなら、神様はきっと指摘してくださるでしょう。——16 もちろん、あなたがたが、与えられた真理に完全に従っているならば、の話です。

17 愛する皆さん。どうか私の生き方を見ならってください。また、私を手本として生きている人たちに目をとめてください。18 というのは、今までも、しばしば注意してきたことですし、今また、涙ながらに訴えたいのですが、クリスチャンとして歩みながら、実はキリスト様の十字架に敵対している者が大ぜいいるからです。19 彼らの行き着く先は永遠の滅びです。自分の欲望を神とし、ほんとうは恥じるべきことを誇っているからです。頭は、この地上の生活のことでいっぱいになっています。20 しかし、

私たちのふるさとは天にあります。そこには救い主である主イエス・キリストがおられます。私たちは、キリスト様がそこから帰って来られるのを、ひたすら待ち望んでいるのです。21その時、キリスト様は、あらゆる所の、あらゆるものを従わせる超自然的な力で、私たちの死ぬべき体を、ご自身と同じ栄光の体に変えてくださるのです。

#### 四

1 愛するクリスチャンの皆さん。私はあなたがたに、ぜひ会いたいと願っています。あなたがたは私の喜びであり、私の働きが結んだ実なのですから。愛する皆さん。どうかいつまでも、主に対して真実であってください。

2 ここで今、愛する二人の婦人ユウオデヤとストケにお願いします。どうか、主の助けによってけんかをやめ、もとどおり仲よくなってください。3 私の真実の協力者である皆さん。あなたがたにもお願いします。彼女たちを助けてやってください。キリスト様についての良い知らせを宣傳伝えるために、私と手を組んで働いてくれた人たちだからです。それに、いのちの書に名前が記されているクレメンスやほかの協力者たちとも、力を合わせて働いてくれたのです。

4 いつも、主にあつて喜びに満たされていなさい。もう一度言います。喜びなさい。

5 自己中心的でなく、思いやりにあふれていることを、だれからも認められますように。主がもうすぐ来られると、いつも意識していなさい。6 何事も心配してはなりません。むしろ、どんなことでも祈りなさい。神様にお願いしなさい。そして、祈りに答えてくださる神様に感謝するのを、忘れてはなりません。7 そうすれば、人間の理解をはるかに超えた、すばらしい神様の平安を経験できます。キリスト・イエスに頼る時、その平安は、あなたがたの心と思いを静め、安らかにしてくれるのです。

8 さて、皆さん、筆をおく前に、もう一つ申し上げたいことがあります。真実なこと、良いこと、正しいことに注目しなさい。きよいこと、愛すべきことについて思いめぐらし、他人の長所に目をとめなさい。神様を喜び、賛美することばかりを考えなさい。9 私から学んだこと、その行動から教えられたことがあれば、みな実行しなさい。そうすれば、平和の神が、共にいてくださいます。

10 あなたがたが、また助けてくれるようになって、どんなに感謝し、また、主を賛美しているか知れません。あなたがたはいつも、できるかぎりのものを私に送ろうと心がけていたのに、機会に恵まれなかったのです。11 生活に困っていたから、こう言うのではありません。私は、物が豊富にあろうとなかろうと、楽しく生きていくすべを学びました。12 文なしの時にも、何でもそろっている時にも、どのように生活すべきか知っています。満腹の時にも空腹の時にも、豊かな時にも貧しい時にも、どんな境遇でも満足する秘訣を身につけたのです。13 なぜなら、力を与え、強めてくださるキリスト様に助けられて、私は、神様の要求を、何でも成し遂げることができるからです。14 しかし、それにしても、よくぞ今、困難な状況下にある私を助けてくれました。

15 よくご存じのとおり、キリスト様についての良い知らせを携え、初めてあなたがたを

訪問した私が、その後マケドニヤを離れて他の地方に向かった時、物をやり取りして協力してくれたのは、あなたがたピリピの教会だけでした。ほかに、そんな教会はありませんでした。16テサロニケ滞在中でさえ、二度までも、物資を援助してくれました。17贈り物を感謝するのはもちろんのこと、何よりもうれしいのは、その親切な行ないのゆえにあなたがたが受ける、豊かな報いのことです。

18今のところ、必要な物は何でもそろっています。それどころか、必要以上に満たされています。エパフロデトにことづけてくれた贈り物をいただいて、十分すぎるほどです。その贈り物は、神様が喜んで受け入れてくださる、香ばしいかおりの供え物です。

19この神様は、キリスト・イエスが成し遂げてくださったことに基づいて、ご自身の栄光の富の中から、あなたがたに必要なものをすべて満たしてくださる方です。20父なる神に、栄光が、とこしえに限りなくありますように。アーメン。

パウロ

追伸

21そちらのクリスチャン全員によろしくお伝えください。こちらにいる兄弟たち（信仰を同じくする人々）がよろしくとのこと。22また、他のクリスチャンもみな、特にカイザル（ローマ皇帝）の宮廷に仕えている人々が、よろしくと言っています。23どうか、主イエス・キリストの祝福が、あなたがたの霊と共にありますように。

▪